

バイオベンチャー分科会

2005年3月
オーガナイザー
山本 伸
沖本 優子

バイオベンチャー分科会の趣旨

分科会のスタイル

- ・講演者をお招きし、1時間程度でご講演をしていただく
- ・基調講演をもとに参加者から質問・意見を出してもらう

講演者

1. バイオベンチャー経営者
 - ・創薬型ビジネスモデル
 - ・創薬研究・支援型ビジネスモデル
 - ・テクノロジー・情報提供ビジネスモデル
2. バイオベンチャーの周辺
 - ・ベンチャーキャピタリスト
 - ・コンサルタント

講演者一覧

			創薬型ビジネスモデル	創薬研究・支援型ビジネスモデル	テクノロジー・情報提供ビジネスモデル	ベンチャー支援
4月	オリックス・キャピタル	井上安様				
5月	(株)アドバンジェン	元木一朗社長				
6月	(株)バイオマトリック研究所	村上康文先生				
7月	(株)リンフォテック	関根暉杉社長				
9月	(株)医薬分子工学研究所	板井昭子社長				
10月	(株)ジェノファンクション	野沢巖社長				
12月	マッキンゼー・アンド・カンパニー	仙石 慎太郎様				
1月	インシリコ・サイエンス	淵上欣司 社長				
2月	東京大学医学部研究所	長村文孝様	「トランスレーショナルレリサーチの展望:現状と課題」(仮)			

慶応大学ビジネススクール中村先生、隅蔵先生の共催

4月 オリックス・キャピタル 井上 安 マネージャー

「ベンチャーキャピタルはバイオベンチャーのここを見る！」

投資の際のポイントは「人材」「技術」「資金」「市場」「株価」の5つに集約されるそうですが、この中で一番重要なのは人、すなわちマネージメントだそうです。

ベンチャーの顧客である大企業のニーズや意思決定プロセスをよく理解している人がマネージメントに加わる必要があります。

バイオベンチャーに関しては製薬会社出身の経営者が加わるといういいということになりますね

5月 株式会社アドバンジェン 元木 一郎 社長

「バイオの専門家(?)を目指して」

三菱総合研究所、理化学研究所(出向)、経済産業省生物化学産業課と、様々な場所で「元木だから仕方がない」という状況を作り上げてきたマイペース人間(本人談)をお招きし、「出すぎた杭は打たれない」生き方のコツ(本人談)をお話いただきました。

バイオの話もさることながら、ラーメン評論家として成功するにいたった戦略も非常に参考になりました！

親と子のゲノム教室 ONLINE



更新情報

ウェブ版「親と子のゲノム教室」へようこそ！



本の内容

ここでは、本を読んで疑問に思ったことに回答したり、本では説明し切らなかった最新のキーワードについて説明したり、本で紹介していた色々なお役立ちサイトへのリンクを揃っています。



質問箱

本を買った方も、まだ買ってない方も、お気軽にお立ち寄り下さい。

E-mail grum@yik.netlaputa.ne.jp



リンク集



訂正



購入情報



00 | 108

(since 2003.1.20)

当HPの文章・画像については許可なく転載しないで下さい。

6月 株式会社バイオマトリックス研究所 村上 康文 先生

<http://www.biomatrix.co.jp/>

東京理科大学発のバイオベンチャーである株式会社バイオマトリックス研究所の事業内容について創設者である村上先生にお話しいただきました。

大学ラボでの高度な研究ノウハウを活用したマイクロアレイは、オリゴ数を多くすることにより、ノイズを抑えているそうです。

非常に明るく気さくで、大学の先生に対するイメージが変わるような??ビジネスにもお詳しい先生でした。

7月株式会社リンフォテック 関根 暉彬 社長

<http://www.lymphotec.co.jp>

免疫細胞の一種であるリンパ球を活性化した活性化自己リンパ球の医薬品化をめざすベンチャーです。長年活性化自己リンパ球治療を行ってきた関根社長にリンフォテック設立の経緯や事業内容についてお話しいただきました。

個人差が出る免疫細胞療法ですが、肝がんの再発予防について統計的優位差をもって、予防効果があったという論文を発表されているのは(Takayama, T.

et al., Lancet, 356, 802-7, 2000)特筆すべき点です。



9月 株式会社医薬分子設計研究所 板井 昭子社長

<http://www.immd.co.jp/>

先生が長年ご研究されてきた論理的分子設計技術をもとにした、研究開発型の創薬ベンチャーです。現在前臨床試験が終了、臨床試験入り目前です。

また、KeyMolnetという分子ネットワーク・ソフトも開発しているのですが、これが生体分子・疾患・医薬・生体现象に関する論文・総説から人の目で(ロボットではないところがミソです)精選した情報をコンテンツとしているので非常に使いやすいのです。アカデミック向けもはじめたそうなのでぜひ一度セミナーに行く価値あります。



10月 株式会社ジェノファンクション 野沢 巖 社長

<http://www.genofunction.jp/>

当社独自のsiRNA網羅的作成技術を用いた発現ベクターライブラリーについて解説いただくとともに、今注目の技術であるRNAiについての最新トピックや業界事情もご紹介いただきました。

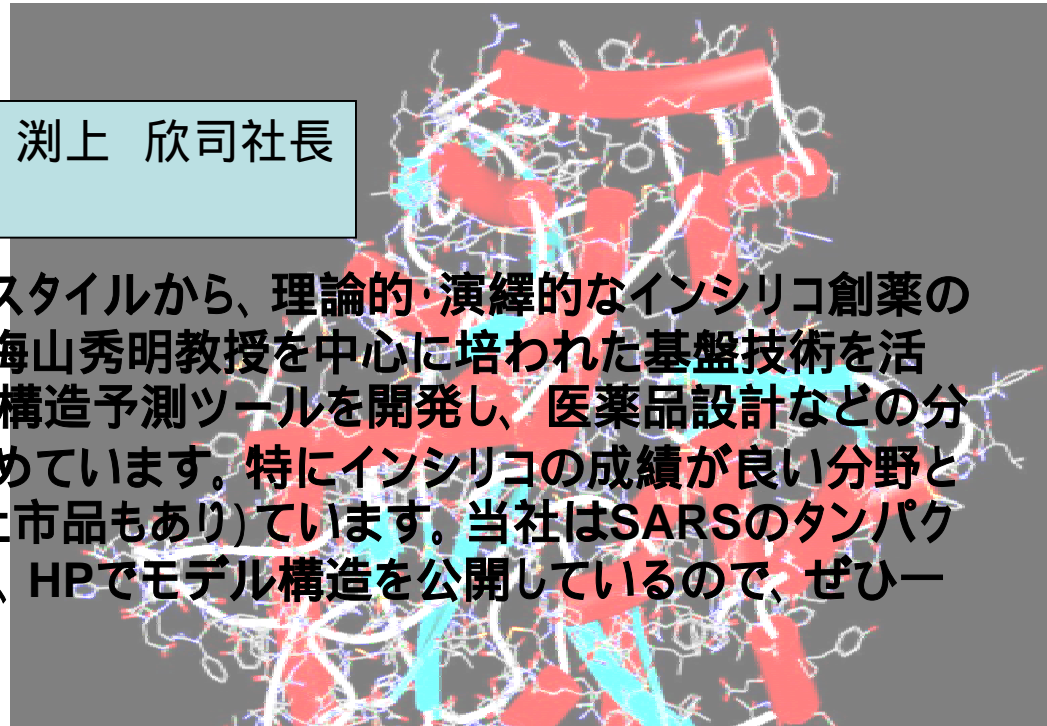
RNAi医薬に関するHow・Newsといえば、ついに2品目についてフェーズ 入り(米Sirna社と米Acuity社、ともに黄斑変性症)。デリバリーの問題をDDSで解決し、眼科領域以外への応用可能性を示唆する論文もいくつか発表になっています(米Alnylam社nature 11/11、日本新薬 Clin. Can. Res. 11/15)。あ

12月 マッキンゼー・アンド・カンパニー
仙石 慎太郎様

東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻、嗅覚受容体に関する研究で博士(理学)を取得。現在マッキンゼー・アンド・カンパニー日本支社のアソシエイト、製薬企業などヘルスケア関連企業に対するコンサルティングに携わっていらっしゃいます。製薬企業のR & D戦略についてお話しいただきましたが、数々見せていただいたデータの中でも欧米と日本の製薬会社の「1領域あたりのR % D費」の違いは明確。日本で大手といわれる製薬会社も、欧米で見ると中堅レベル。同じくらいの時価総額の会社を比べると、欧米では「3領域に特化」などといった戦略をとっているのです。

1月 株式会社インシリコサイエンス 瀧上 欣司社長
<http://www.pd-fams.com/>

偶然性や職人的経験に頼った創薬スタイルから、理論的・演繹的なインシリコ創薬の現実的になってきました。北里大学梅山秀明教授を中心に培われた基盤技術を活かし、世界トップレベルのタンパク質構造予測ツールを開発し、医薬品設計などの分野で製薬会社の共同研究開発を進めています。特にインシリコの成績が良い分野として、ウイルスの領域が挙げられ(上市品もあり)ています。当社はSARSのタンパク質立体構造を予測することに成功し、HPでモデル構造を公開しているので、ぜひ一度ごらんになってください。



バイオベンチャー分科会からのお知らせ

オーガナイザー

山本(日本バイオ・ラッド・ラボラトリーズ)
& 沖本(みずほ証券)に

バイオ探検家のページとのコラボ

- ・バイオベンチャー分科会での講演内容をメルマガ配信
- ・次回smipsの告知
- ・その他のバイオの情報も

<http://biotankenka.seesaa.net/>

にアクセスしてみてください！

